



あがのがわ まんがんじ きじゅんてんひょうせき 阿賀野川満願寺「基準点標石」

阿賀野川満願寺「基準点標石」は、1915年(大正4年)国が初めて阿賀野川の工事を行った時に、測量・設計図の作成・工事を行うための基準として、内務省(今の国土交通省)が設置したものです。



この時作られた設計図によって、今の阿賀野川の形が決められたことから、基準点標石はいわば「**阿賀野川の形を決めた原点**」と言えます。

▲ 基準点標石のプロフィール



- ・時期 : 1915年(大正4年)に設置されたものと考えられています。
- ・場所 : 新潟県 新潟市秋葉区満願寺(まんがんじ)
阿賀野川改修記念公園(あがのがわ かいしゅうきねん こうえん)
- ・形 : 載頭方錐形(さいとうほうすいけい)といい、ピラミッドの頭を切った台形のような形です。
- ・大きさ : 上が一辺24.5cm、下が一辺32cmで、高さが44cmあります。
- ・材質 : 花崗岩(かこうがん)という石の一種で、「安田町(現在の阿賀野市)産 草水石(くそうずいし)」と呼ばれています。
- ・書いてあること: 上に×印と「東西南北」、横に「内務省」や「11M723」、「陸地測量部 水準基面上(りくちそくりょうぶ すいじゅんきめんじょう)」と書かれています。陸地測量部とは、今の国土地理院(こくどちりいん: 日本で地図を作っている所)です。11M723は高さを表しており、基準点標石の高さが標高(土地の高さ:T.P.ともいいます)11m723にあったことを記しています。

※T.P.とは東京湾の海の平均的な高さを基準(0m)としたもので、この時代から使われました。

基準点標石と阿賀野川の歴史

昔の阿賀野川は曲がりくねっていたため洪水が多く、特に1913年(大正2年)の洪水「木津切れ(きつぎれ)」では大きな被害がありました。

これをきっかけに、多くの人々が「もっと丈夫な川にしてほしい」と国にお願いをしたことで、今の阿賀野川が作られました。

基準点標石には、当時の人々の思いが込められています。



木津切れによる被害の様子(1913年)

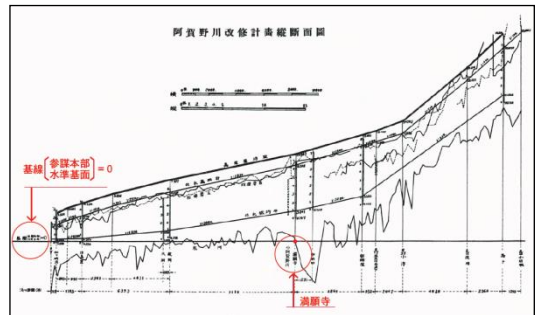
基準点標石と阿賀野川の設計図

今の阿賀野川を形作った当時の設計図は、基準点標石が置かれている満願寺を中心として図面が作られていたので、測量に使われたこの基準点標石が「阿賀野川の形を決めた原点」と言えます。



阿賀野川の設計図①

(赤い線がこの時作られた今の阿賀野川)



阿賀野川の設計図②(川を縦に切った図で中心に「満願寺」と書かれています)

他にもある、基準点標石に関する色々なこと

実は、基準点標石の形や刻まれた内容も大変珍しく、貴重なものです。詳しくは、右のQRコードから調べることができます。



工事によって阿賀野川が今の姿になってからは、洪水がほとんど無くなり、田んぼや道路が増えて、現在の豊かな暮らしができるようになりました。

阿賀野川満願寺「基準点標石」は新潟の発展と阿賀野川の関わりを伝える証(あかし)として、これからも大切に保存していきます。

皆さんもぜひ、阿賀野川の歴史に触れてみて下さい。

基準点標石へのご案内

- 場所 新潟市秋葉区満願寺「満願寺改修記念公園」内
(阿賀野川河川事務所 満願寺出張所付近)
- 交通アクセス
 - ・車でお越しの方: 国道460号中新田交差点から新潟方面へ向かい満願寺交差点を曲がってすぐ
 - ・バスでお越しの方: 新津駅前より沢海経由新潟行 満願寺水門停留所下車すぐ

